

1. 特定技能外国人が小ぎく、ゴーヤー、オクラ生産を支え、年間を通じて活躍(伊敷 雅司 氏)

【経営の概況(令和3年10月現在)】

所在地 : 沖縄県糸満市

従業員 : 本人、家族1名、特定技能外国人2名(ベトナム人男性)

経営規模 : 露地2.2ha(小ぎく2.2ha、オクラ・ゴーヤー1ha) 平張施設46a(小ぎく)、休耕66a

ポイント

☆ 新規就農時の経営規模は所有地を含め約1haであったが、外国人材を2年前から受け入れて3.3haまで拡大。

【農業振興】

- ・ 平成30年に新規就農。市から青年等就農計画の認定を受け認定新規就農者となった。就農に関する給付金を国から受給。県事業でトラクターを導入。
- ・ JAおきなわ南部花卉生産部会に所属し、小ぎくを主に県外へ共同出荷。夏場はオクラ、ゴーヤーを出荷。連作障害を防ぐため輪作体系をとり、夏場にオクラ等を作付けしないほ場は、ソルゴー(緑肥)の栽培・すき込み後に一定期間休耕。

【外国人材】

- ・ 特区外国人材2名が伊敷氏と他農家に派遣されていたが、両者は令和3年1月と9月に在留資格を特定技能に移行し、同氏が直接雇用。
- ・ 外国人材は、小ぎく・野菜の栽培管理全般と出荷作業に従事(農薬散布、大型機械の操作は同氏が担当)。
- ・ 外国人材は作業指示等をノートにまとめ、作業や日本語取得のため日々努力しており、意思疎通も円滑。
- ・ 外国人材の希望で、繁忙期は超過勤務を実施。
- ・ 繁忙期の小ぎく出荷が一区切りつく、3月と12月に賞与を支給。
- ・ 定期的に懇親会を開催し、仕事や生活で困ったことがないか、話をよく聞いてコミュニケーションを図ることに尽力。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 市街地にアパートを借り上げて、ほ場まではバイク通勤。



左から伊敷氏、特定技能外国人の2名(糸満市)



特定技能外国人が小ぎく電照栽培用ランプを設置

2. 性格も明るくムードメーカーの特定技能外国人らと共に野菜を生産(大城 直樹 氏)

【経営の概況(令和3年11月現在)】

所在地 : 沖縄県南城市、八重瀬町、糸満市

従業員 : 本人、日本人3名、パート2～3名(繁忙期の冬春期)、特定技能外国人1名(ベトナム人男性)

経営規模 : 3.5ha(うち借受地が3.3ha)

○パイプハウス:さやいんげん(2.3ha)や、きゅうり、ピーマン、なす ○露地:キャベツ(1ha)や、オクラ、クーガイモ

ポイント

☆ 新規就農時の経営規模20aを、外国人材も受け入れて契約栽培し3.5haまで拡大。近年収入も増加。

【農業振興】

- ・ 7～8年前に新規就農し、現在は野菜類を簡易なパイプハウスと露地で栽培。
- ・ さやいんげんは特別栽培農産物として県から認証を受け、比較的高単価で県内の集出荷業者を通して県外に値決め出荷。
- ・ キャベツはカット野菜用として県内加工業者に出荷し、一部をJA直売所に出荷。
- ・ 輪作や畑の休耕、たい肥使用により連作障害対策を徹底。

【外国人材】

- ・ 令和元年11月に特区外国人材を受け入れ、契約満了後も外国人材が大城氏の下で就労を希望していたことから、同人材は特定技能へ移行し、令和3年1月に同氏が直接雇用。
- ・ 外国人材や他従業員が自主的に作業が出来るよう示された大まかな作業スケジュールに沿って、農作業全般を担当。作業前のミーティングで、農薬散布時のドリフト等に注意するよう指示し、栽培管理作業以外の資材管理・運搬等は主に同氏が担当。
- ・ 日によって作業体制が変わることもあることから、外国人材は他ほ場で作業している従業員と、終業時のお互いの作業進捗等を共有のうえ、翌日の作業を確認。
- ・ ベトナム人は仲間で集うことが好きで、明るい性格の外国人材は同国の友人や日本人スタッフを自室に招き、母国料理を振る舞うなど、受入れ先等と深く交流。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 自宅の2階を改装して居住。住まい近くのほ場まで原付バイクで出勤し、他地区ほ場に移動する際は、日本人スタッフが送迎。



左から大城氏、特定技能外国人(南城市)



特定技能外国人による、さやいんげん管理作業の様子

3. 特定技能外国人、日本人研修生らと野菜類を生産(山城 学 氏)

【経営の概況(令和3年12月現在)】

所在地 : 沖縄県糸満市

従業員 : 本人、特定技能外国人2名(ベトナム人男性) ※令和4年2月から日本人研修生2名を受け入れ

経営規模 : 露地2.3ha(夏期:オクラ・とうがん、冬期:スイートコーン) 施設1ha(夏期:ゴーヤー・きゅうり、冬期:ピーマン)

ポイント

☆ 国の事業等を活用し、県内外の大学等既卒者を研修生として受け入れて、新規就農者輩出にも尽力。

【農業振興】

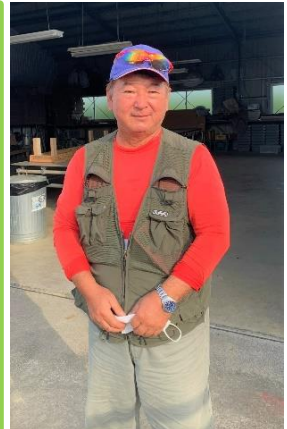
- ・ 県から指導農業士(ピーマン等)として認定。県内外の大学等既卒者を研修生として受け入れて、地域の新規就農者輩出に尽力。
- ・ JAおきなわの野菜生産部会に所属し、ピーマンを始め、ゴーヤー、オクラ、スイートコーン等の野菜類をJAおきなわを通して出荷(出荷先はJAおきなわに一任)。JA直売所が品薄時には直接出荷。

【外国人材】

- ・ 2年前に特区外国人材を派遣で受け入れたが、同人材2名は令和3年4月と8月に在留資格を特定技能に移行し、同氏が直接雇用。
- ・ 外国人材は、栽培管理全般と出荷作業に従事し、危険を伴う重機やトラクターの操作は山城氏が担当。
- ・ 外国人材への食材の差し入れや、積極的な声かけにより、良好な関係を構築。

【外国人材の居住環境等】

- ・ ほ場近くにアパートを借り上げ。相部屋を避け外国人材のプライバシーを確保。ほ場まではバイク通勤。休日は業務用スーパー等で買い出し。
- ・ 糸満市は技能実習生等の受け入れが盛んで、コロナ禍の前までは、同氏の呼びかけにより地域の外国人材と住民が交流を図るサッカー大会を開催。コロナ禍が落ち着けば、市にも働きかけて再び開催を検討。



指導農業士、認定農業者、JAおきなわ経営管理委員の山城氏(糸満市)



施設で栽培している大型ピーマン「ちぐさ」

4. 野菜生産を支える外国人材(農業生産法人 株式会社吉田ファーム)

【経営の概況(令和3年11月現在)】

所在地 : 沖縄県南城市

従業員 : 代表者(認定農業者)、日本人4名(うち1名は事務担当)、特定技能外国人1名(男性)、技能実習生2名(女性)(全員カンボジア人)

経営規模 : 露地2ha(ブロッコリー33a)、施設1.5ha(トマト、ゴーヤー、なす等で1.3ha)

※連作障害を防ぐため、また労働力不足もあり約2haは休耕中

ポイント

☆ 日本人従業員が就労間もない特定技能外国人をしっかりサポートし、働きやすい環境や信頼関係を構築。

【農業振興】

- ・ 当初の経営規模1haを3.5haまで拡大しながら、技能実習生等を受け入れて要員を確保。
- ・ 野菜を周年出荷しており、トマト・ミニトマトは県外の仲買人に契約出荷し、ゴーヤー、ヘチマ、なす、ブロッコリーは県内量販店に出荷。これらの出荷先以外に直売所にも出荷。

【外国人材】

- ・ 5年前から技能実習生を受け入れており、特定技能外国人は令和3年9月から直接雇用。
- ・ 特定技能外国人は就労して間もないことから、ハウスの修理やビニール張りが主な業務。
- ・ 今後は野菜の栽培管理全般を任せる予定(農薬希釈の薬量確認は日本人従業員が対応)。
- ・ 本人の希望もあり、繁忙期は休日出勤を予定し、閑散期には有給で長期休暇を取得する予定。
- ・ 繁忙期は人手が足りない状況が続いており、あと2名ほど外国人材の受入れを検討。
- ・ 代表者は別会社で派遣事業の許可も得ており、登録支援機関や繁忙期の異なる県外産地と連携して、外国人材を県内外の産地間で相互に派遣することも検討。

【外国人材の居住環境等】

- ・ ほ場近くに空きアパートがないことから、5～6km離れた地域にアパートを借り上げて、自転車又は、日本人従業員の車での送迎で出勤。



左から特定技能外国人、代表者の吉田氏(南城市)



特定技能外国人によるトマトの管理作業の様子

5. 特定技能外国人の力も借りて野菜等種苗を安定生産(株式会社サザンプラント)

【経営の概況(令和3年11月現在)】

所在地 : 沖縄県八重瀬町

従業員 : 代表取締役、他取締役8名、正職員13名、特定技能外国人2名(ベトナム人男性)、臨時職員7名、パート職員42名～70名。うち正職員10名、臨時職員4名、特定技能外国人2名、パート職員全員が現場作業に従事。

経営規模 : 育苗等施設総面積 174a(野菜育苗施設、花卉育苗施設、ゴーヤー増殖施設、さとうきび苗生産施設等)

ポイント

☆ 日本人はパートタイム労働の希望が多く、フルタイムで働ける特定技能外国人の安定したマンパワーも不可欠。

【農業への貢献】

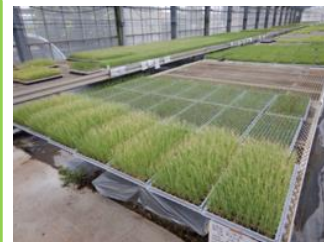
- ・ 当社は消費ニーズにあった園芸作物等の種苗を高品質生産し、農家の作業分業化による労働力の軽減、農地有効利用に資すること等を目的に設立。
- ・ JAおきなわを通じて、主にゴーヤー、トマト等の野菜や菊の苗、さとうきび一芽苗を農家に販売。近年は家庭菜園向けにホームセンターへの出荷量も増加。
- ・ 取締役はJAおきなわ役員や行政首長等で構成し、株主はJAおきなわ、南部市町村、農産物卸売会社、農機販売会社で構成。

【外国人材】

- ・ 以前から、県外の監理団体を通じて技能実習生を受け入れており、4年前にJAおきなわを通じて受け入れた技能実習生が、令和3年5月に技能実習を修了後、在留資格を特定技能へ移行し、当社で直接雇用。外国人材は、野菜や花きの苗、さとうきび一芽苗の生産全般に係る作業、出荷(配達)作業補助に従事。
- ・ 危険を伴う作業はほとんどないが、原則施設内の作業で夏場は高温になることから、特に熱中症対策に留意。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 会社内に居住スペースを確保。Wi-Fiを設置し、母国の家族との連絡は円滑。
- ・ 当社職員による休日の買い物への付添いや、緊急事態宣言解除後のカラオケ会・懇親会の開催、夜食の差し入れ(多い時は週3回)、自社生産の青果物の頻繁な支給等、会社は外国人材に長く就労してもらえるよう常に配慮。



上下写真とも
野菜種苗生産施設内(八重瀬町)



野菜種苗生産施設外観

6. 植物工場で葉野菜生産に従事する特定技能外国人(株式会社グリーンプラントカミヤ)

【経営の概況(令和3年12月現在)】

所在地 : 沖縄県南城市

従業員 : 工場長、管理者、特定技能外国人2名、特区外国人2名(全員ベトナム人女性)、日本人パート10名(男性4名、女性6名)

栽培規模 : フリルレタス、ロメインレタス等の非結球レタスの栽培ラック164台(高層式、養液容量2t/台)

ポイント

★ 環境制御された植物工場は、一般の農業に比べて重労働は少なく、求職者からも注目されており、地域の雇用創出にも貢献。

【植物工場事業】

- ・ 平成30年7月に本植物工場が完成。商標登録(美ら菜®)したフリルレタス等を、温湿度、養液、人工光、CO₂をICT機器で管理のうえ環境制御した施設内で栽培。施設内へのセンチュウ類の侵入を防ぐため、訪問者や手荷物の消毒を徹底。栽培スペースに立ち入ることなく、事務所内のモニターで栽培状況等の確認が可能。
- ・ 主に県内の量販店、ホテルと契約栽培をして周年出荷。他にもJA直売所や海外(香港)にも出荷。

【外国人材】

- ・ JA沖縄中央会から当社に派遣されていた特区外国人1名が、令和3年4月に在留資格を特定技能へ移行し当社が直接雇用。また、県外に在住していた外国人材1名を令和3年12月に特定技能で直接雇用。
- ・ 令和3年7月よりJA沖縄中央会から特区外国人2名が派遣されており、うち1名が令和4年夏頃に特定技能へ移行を予定。
- ・ 植物工場で葉野菜の栽培管理に従事。脚立を使用した高所作業、包装機、野菜カット機の使用時は事故が起きないように注意喚起を徹底。

【外国人材の居住環境等】

- ・ アパートを借り上げて居住。工場には自転車で通勤(10~15分程度)。
- ・ 居住地から商業施設まで距離があるため、アパート近くに住んでいる友人(外国人)が所有する車に便乗して食料品等を買出し。また、同友人と都合が合わない時は、女性従業員の車に同乗して買出し。



特定技能外国人(中央)
高江洲工場長(右)
高江洲管理者(左)



植物工場の外観(南城市)